

栄養科を“ONE TEAM”に ～前進する組織をつくる～

荻野 悠斗[※]、石川 香菜、高橋 千遥、井上 紗矢香

(春日部中央総合病院栄養科・係長)

【目的】

当院は404床を備える2次救急指定病院である。栄養科は給食管理業務を直営で運営し、人員は管理栄養士13名、栄養士6名、調理補助17名である。

2019年栄養科では人材不足により時間外労働が増大し、7月には重大なアクシデントが発生している。当時、栄養科の運営は一部のスタッフで進めていたが明確な指示出しができておらず、各自の役割が不明確だったことから連携体制が取れていなかった。そこで、2019年中旬より栄養科の組織化と職場環境改善を目標として取り組みを開始した。

【取り組み内容】

2019年中旬から2020年度にかけて下記内容について取り組みを行った。

- ①指示命令システムの明確化
- ②業務改善を行うチームの立ち上げ
- ③定例ミーティングの実施
- ④調理補助増員

【結果】

- ①指示命令システムの明確化

指示命令システムを明確化したことで、報告・連絡・相談・確認がスムーズに行われるようになった。

- ②業務改善を行うチームの立ち上げ

チームを立ち上げたことで各自に役割が与えられ、部署内の課題に対してチームの一員として自発的に取り組む姿勢が見えてきている。

- ③定例ミーティングの実施

定例ミーティングを行うことで部署内の状況、課題、方向性を共有することができるようになった。

- ④調理補助増員

調理補助増員で正職員の専門的な業務にあたる時間が取れるようになった。また、早番や遅番の時間帯を増員したことで時間外労働削減につながった。

【考察】

栄養科の組織化を進めたことで業務改善につながっただけではなく、栄養科内の雰囲気も明るくなったと他部署から言われるようになった。栄養科の目標を個々の目標と捉えることができるようになり、一致団結して前に進める組織になっているのではないかと。また、不足しやすい時間帯を狙い人員補充することで時間外労働削減だけでなく、専門職としての業務時間を取れるようになり働きやすい職場環境につながったと言える。